

# 曾於文藝

「題字」

末吉文化協会会員  
瀬戸口 淳民 氏

## 俳句

### 末吉俳句会

初桜一輪愛でてまた一輪

古藤 まゆ美

土手を行く土筆の風に誘われて

瀬戸内 紀子

青空へ辛夷一樹の主張かな

本浦 玲子

### 千草俳句会

神木に驚の巢あまたかかりをり

児玉 タエ子

お白酒ほんのりかく和みけり

千田 茂子

山里を鎮めて花の雨上る

田之上 千代子



500本の岩ツツジ  
(大隅道の駅)

### 大隅俳句会

春泥や傘もささずに下校の子

岩重 みどり

振りむけば猫と散歩や水温む

穎娃 晴美

春疾風杉の花芽を踊らせて

河南 三保

## 短歌

### 末吉短歌会

一人減り二人減りして法要の

席に居並ぶうから老いたり

森岡 ちどり

夫と並び朝刊広ぐる二人背を

ほっこり包む冬の陽だまり

大森 澄子

頬の傷も耳の切れしも野良「ヤメ」の  
原風景に香き海鳴り

長倉 佳津子

### 大隅短歌会

寒いからと娘のくれしマイボトル

飲むたびごとに体ほかほか

入来 レイ子

ひと日終え漢詩を吟じ嫌なこと

湯船に流す冬のたそがれ

渡辺 哲夫

芳しき木の香の煙暖炉より

昇りて夜の静謐に入る

広川 ミドリ

### 財部短歌会

北風にあふられ踊る杉木立

寒い寒いと声かけながら

児玉 次雄

早春のやはき光に包まれし

窓辺に笑まふシクラメンの花

杉村 リカ

誘はれて春のデパートぶらぶらと  
ベレー帽斜めにおしゃれのポーズす

井上 澄子

## 薩摩狂句

### にがごい会末吉支部

鈍び奴が 遅れっ来ちよつ

議あ吐えつ 浜田 一好

話合えも 隅々にけ曲い

鈍び頭 古川 一幹

鈍びか上 呆やすなつたち

婆が吐えつ 田代 勝泉

鈍び婆様 何ゆ言われてん

け笑るちよつ 桐野 奈世

### 大隅薩摩狂句会

無料んごつ 使こたカードん

後が心配 神宮司 素水

スマホ漬け 畏ね嵌らんか

子供が心配 津留 群志

休肝日 茶が過つたか

寝やならじ 太良木 五徳

薬どま 効つ目で負けた

母親ん笑顔 新屋 涼子